

会 員 異 動

(平成2年6月)  
入 会

青木文男  
天野正彦  
安達一成  
池田倫正  
石倉成一  
石崎陽樹  
今井秀史  
内田泰隆  
内田康信  
ヴァハダテカキ  
ジャリル  
江頭秀起  
江原圭介  
太田範男  
大前堯修  
本 修

小川一利  
奥村恭司  
小沢俊達  
小田奈正  
小椋山冬友  
加片山教則  
金井田卓幸  
川嶋田幸  
川池修  
菊川岸貞  
北木村光  
木村幸  
桐原雄  
久保山清

田博司  
原博文  
野志秀行  
古谷桂介  
小町山一  
小坂場則一  
佐藤武史  
佐藤宣男  
重庄晴政  
白木邦治  
瀬尾真純  
関根功  
相馬秀次  
高橋節志  
竹内幸一  
竹下健治  
田中彦  
棚玉田基  
坪田淳

轟内中中中永長西原原平藤松道棟森山山山湯吉渡渡  
藤島中中中野瀬嶺田田田林井岡野田田本浅原壁刃  
秀行邦純多加昭昇雄之基二浩司一彦圭晃真知子朗夫  
和雄彦崇一豊志昭昇雄之基二浩司一彦圭晃真知子朗夫

退 会  
天弘義一  
飯島史一郎  
家家長吉  
泉村一  
小金川辰  
倉本博  
澤場田  
沢田田  
民田田  
千野井  
永持村  
西野川  
野二木  
二居上  
松居上

外国会員  
(平成2年6月)  
入 会  
Gyeol Sil Kim  
S & T Informa-  
tion  
Center of  
Mobarakeh  
Steel Com-  
plex  
Yoo Young  
Jong  
Peter Chang  
Hee Rhee

退 会  
Inland Steel  
Co.  
Yoshikuni  
Tokunaga  
Edmond  
Vachery  
Paul Rabbe  
Edward B.  
Clark

★★★ 欧文会誌 “ISIJ International” 特集号 ★★★

原稿募集のご案内

Interfacial Phenomena of Refining and Casting Processes of Iron and Steel

一般に冷却反応は、界面における諸現象と深く関わっています。従来から界面現象として取り組まれてきたスラグ-メタル間反応、ガス-メタル間反応など以外に、最近の熔融還元、溶銑の予備精錬法の開発の進展に伴い、スラグのフォーミングについても、ガス-スラグ-メタルの界面現象として新しい知見が見出されつつあります。また、材質の向上を目的とした鋼の高純化、生産性の向上に関連して、耐火物による溶鋼汚染防止、連続工程における浸漬ノズルの介在物閉塞防止などにも顕著な進展が見られます。さらに、これらの現象の解析に必須である種々の界面物性値についても、新しい知見が蓄積されつつあります。

このような界面現象の研究の進展を考慮し、欧文会誌 “ISIJ International” では、「鉄鋼製錬、 casting プロセスにおける界面現象—Interfacial Phenomena of Refining and Casting Processes of Iron and Steel—」に関する特集号を “ISIJ International” 1991年12月号にて発行する予定です。

本特集号では、ガス-スラグ-メタル間反応、スラグフォーミング、耐火物溶損、連続 casting におけるスラグ、パウダーの溶解、介在物の凝集、ノズル閉塞、界面物性に関する基礎研究、応用研究開発に関する原著論文及び Review 記事を、国内外を問わず広く募集致します。

原稿投稿の締切りは 1991年5月10日です。

◆◆◆詳細は、日本鉄鋼協会 編集・業務室欧文誌係までお問合せ下さい。◆◆◆

## 「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

## テーマ：表面処理特集号

原稿締切日 平成2年11月9日

近年の表面処理技術の進歩は目ざましく、自動車、家電、建材、缶、鋼管、土木、建築などの各需要分野において、新しい表面処理製品が次々と開発・実用化されております。またそれらの腐食挙動、加工性、溶接性などのいわゆる利用加工技術の進歩も見逃せません。今後も鉄鋼業において、表面処理技術がますます重要になるであろうことは、誰しも認めるところであります。

このような情勢下で、技術の更なる飛躍の足掛りとすべく、今回5年ぶりに表面処理特集号を企画しました。内容は、熔融めっき、電気めっき（非水めっきを含む）、気相めっき、塗装、ラミネート、重防食、化成処理、自動車用鋼板、家電材料、建材、缶材料、鋼管、その他表面処理鋼材、ステンレス・チタンの表面処理や、材料の腐食挙動、塗装性、加工性、溶接性、接着などと幅広く考えております。皆さんの積極的な論文投稿をお願い致します。

1. 原稿締切日 平成2年11月9日（金）
2. 発行 「鉄と鋼」Vol. 77 No. 7（平成3年7月号）
3. 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上がり8ページ以内  
（表、図、写真を含めて本会原稿用紙40枚以内）  
（注）・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。  
・投稿された論文は編集委員会において審査されます。
4. 問合せ・原稿送付先  
〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階  
（社）日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係 電話 03-279-6021（代）  
（注）投稿時、原稿表紙に「表面処理特集号」と朱書して下さい。

## 「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

## テーマ：分析評価・解析

原稿締切日 平成3年3月11日

近年鉄鋼業界においては超高純度鋼等の高級鋼の開発のみならず、電子材料、有機材料等新素材への躍進もめざましく、製品の高品質化、高機能化が進められております。これらの技術開発において高度の分析評価・解析技術が要求され、最先端の技術導入も実施されております。

前回の特集号「鉄鋼分析」が発行された昭和49年以後、鉄鋼業界においては大きな変革があり、それによって、分析・解析技術も進歩発展がありました。この時期、特集号を企画することは将来の技術開発に向けて有意義なものと考えます。

組成分析、形態分析、自動化及びオンライン分析、表面解析、構造解析、並びに対象材料も鉄鋼をはじめとし、有機材料を含む新素材まで、広範囲の分野における論文・技術報告の御投稿をお待ち致します。

1. 原稿締切日 平成3年3月11日（月）
2. 発行 「鉄と鋼」Vol. 77 No. 11（平成3年11月号）
3. 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上がり8ページ以内  
（表、図、写真を含めて本会原稿用紙40枚以内）  
（注）・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。  
・投稿された原稿は編集委員会において審査されます。  
・特集号にはページ制限がありますので投稿件数によっては一般号にまわされる場合があります。
4. 問合せ・原稿送付先  
〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階  
（社）日本鉄鋼協会 編集・業務室 分析特集号係 電話 03-279-6021（代）  
（注）投稿時、原稿表紙に「分析特集号」と朱書して下さい。